

(市長記者会見資料)

平成30年7月4日
京 都 市

産業観光局観光MICE推進室
TEL: 746-2255

～質の向上の取組が実を結び、
観光消費額が2年連続で1兆円を突破、
宿泊客数も過去最高に～
「平成29年 京都観光総合調査」について

この度、京都観光における観光客数や観光客（※1）の満足度、外国人観光客の動向等を把握することを目的に実施している「京都観光総合調査」について、平成29年1月から12月までの調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

平成29年の調査結果では、観光消費額が1兆1,268億円（前年比3.7%増）となり、2年連続で1兆円を突破しました。

また、日本人宿泊客数、外国人宿泊客数が共に増加し、宿泊客実人数が過去最高の1,557万人（前年比10.0%増）、宿泊客延べ人数も2,444万人（前年比13.7%増）を記録しました（※2）。

その他の調査結果の概要については、添付資料を御覧ください。

※1：観光客とは、市外在住で通勤、通学以外の目的で入浴した方を指し、仕事、買物の目的で入浴した方を含みます。

※2：無許可民泊施設での宿泊客数は含まれていません。

平成29年 京都観光総合調査結果【概要】

「宿泊観光の推進」の取組が実を結び、「泊まってこそ京都」の理念が浸透
 「観光消費額」及び「宿泊客数」が過去最高に！

1 観光消費額は2年連続で1兆円を突破し、過去最高に

- 観光消費額 1兆1,268億円, 京都市民の年間消費支出77.5万人分 (対前年比3.7%増, 406億円増) → **過去最高** (P.27)
 → 「観光振興計画2020」策定時 (平成25年/7,002億円) から60.9%増, 4,266億円増
- 外国人消費額 2,632億円(観光客数に占める外国人観光客の割合 13.9%, 観光消費額に占める外国人消費額の割合 23.4%)
 → 外国人消費額単価は日本人消費額単価の1.9倍 / 買物代,飲食費,入場料・拝観料が前年よりも大きく増加 (P.28)
- 日本人観光客は, 日帰り客単価は微増も, 宿泊客単価が前年よりも減少(対前年比88.1%) (P.27)
- 経済波及効果 1兆2,213 億円, 雇用誘発効果 13万6千人 (P.28)
- 国際会議件数 初めて300件の大台を突破 → **過去最高** (京都文化交流コンベンションビューロー「2017京都開催の国際会議」)

図表1 観光消費額の推移

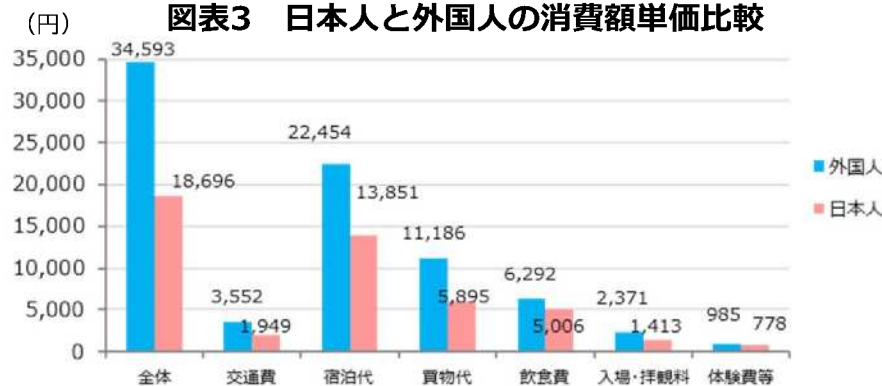


図表2 京都市の消費額規模

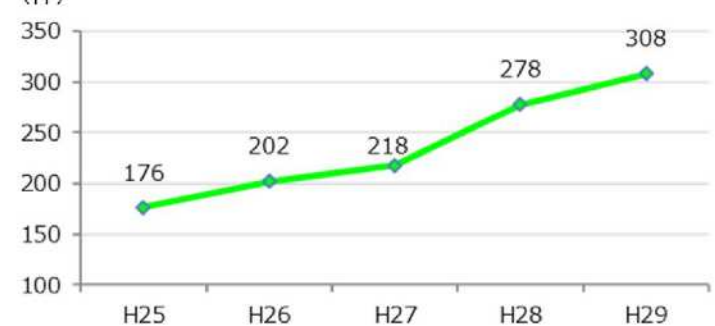


※「京都市統計ポータル」(2017年値)より算出

図表3 日本人と外国人の消費額単価比較



図表4 国際会議開催件数の推移 (JNTO基準)



→ 4年間で1.8倍に

2 宿泊客数は過去最高 平均宿泊日数・宿泊比率も増加 - 宿泊施設拡充や朝・夜観光の取組による宿泊観光の推進 -

① 全体の宿泊客数 ※無許可民泊施設での宿泊客数は含まない ※アンケートに基づく推計値

- 実人数 1,557万人(対前年比10.0%増, 141.2万人増), 延べ人数 2,444万人(対前年比13.7%増, 294.1万人増) → **過去最高** (P.12)
→ 「観光振興計画2020」策定時(平成25年/1,308万人)から19.0%増, 249万人増
- 平均宿泊日数の増加 H28 1.52泊 → H29 1.57泊 (P.12)
- 宿泊比率の増加 H28 25.6% → H29 29.0% (P.9)

② 外国人宿泊客数 ※無許可民泊施設での宿泊客数は含まない

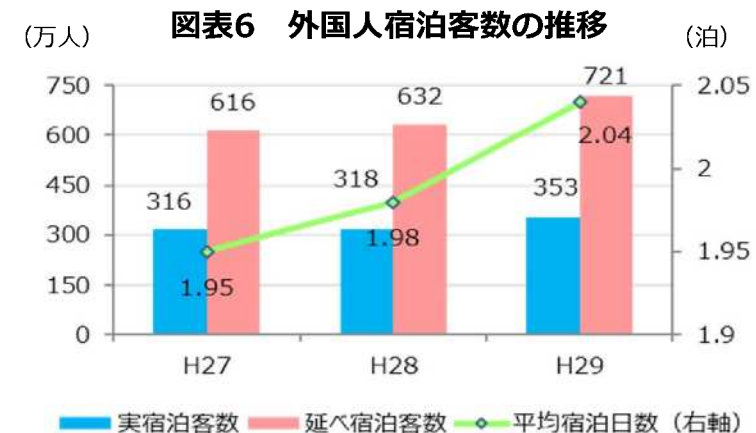
- 実人数 353万人(対前年比10.8%増, 34.3万人増), 延べ人数 721万人(対前年比14.2%増, 89.8万人増) → **過去最高** (P.14)
→ 「観光振興計画2020」策定時(平成25年/113万人)から3.1倍, 240万人増
- 平均宿泊日数の増加 H28 1.98泊 → H29 2.04泊 (P.14)

③ 無許可民泊施設での宿泊客数(推計)

- 無許可民泊施設であるため捕捉できない宿泊客数(実人数) 約110万人

④ 修学旅行生数

- 全国の修学旅行対象生徒数が1.8%減少する中でも増加 実人数 113万人(対前年比1.9%増, 2.1万人増) (P.20)



3 観光客数は引き続き高い水準も、日本人の日帰り客が減少

- 観光客数5,362万人、微減も5年連続5,000万人超え、外国人観光客は743万人に (+82万人)
→ 内訳の推計から日本人 (+107万人) 及び外国人 (+35万人) 宿泊客数、外国人日帰り客 (+47万人) が増加
(無許可民泊施設での宿泊客数は含まない。) (P.7,11,12,14)
- 日本人日帰り客が減少 H28 3,764万人 → H29 3,415万人 (P.7)

4 満足度は引き続き高い水準を維持

- 多くの観光客が京都人のおもてなしを感じ、満足度(大変満足～やや満足)は、日本人(90.9%)、外国人(96.7%)ともに90%超 (P.30,33,35,38)
- 京都以外の地域も訪問先として検討した方のうち、最終的に京都を訪問先として選んだ理由は、
(日本人) 以前来て良かった 45.7%、コンテンツに魅力を感じた28.1% (P.45)
(外国人) コンテンツに魅力を感じた31.4% → 特に北米(53.7%)、欧州(49.4%)、北ア(44.1%)からの評価が高い (P.64)

5 歴史、伝統文化への評価の高まり - 着地型ツアーや体験コンテンツが充実 -

- 日本人の文化体験をした方の割合が増加 H28 28.1% → H29 37.9% (P.51)
- 外国人の歴史、伝統文化への感動度が4年間で2.4倍に
H26 6.2% → H27 11.7% → H28 14.1% → H29 14.6% (P.37)

図表7 観光客数等内訳推計 ※外国人観光客については、京都府訪問者=京都市訪問者とみなして推計

H28	日本人観光客	外国人観光客	計		H29	日本人観光客	外国人観光客	計
日帰り客	3,764万人	343万人	4,107万人	➔	日帰り客	3,415万人	390万人	3,805万人
宿泊客	1,097万人	318万人	1,415万人		宿泊客	1,204万人	353万人	1,557万人
合計	4,861万人	661万人	5,522万人		合計	4,619万人	743万人	5,362万人

※訪日外国人旅行者の京都府訪問者数推計 (訪日外客数×京都府訪問率) 出典: JNTO「訪日外客数」、観光庁「訪日外国人の消費動向調査」
H28 2,404万人×27.5%=661万人 → H29 2,869万人×25.9%=743万人 前年比12.4%増 *日本への訪日外客数の増加率 19.3%

6 今後の方向性 – 市民生活と観光との調和を大前提に、以下の取組を実施–

① 文化と観光と経済の融合 – 文化を基軸とした観光の推進 –

- 文化体験ツアー等の造成をはじめ、文化庁、観光庁、伝統産業業界、文化団体、大学等とも連携し、文化財、伝統文化及び伝統産業の振興と活用の促進、観光と文化を結び付ける取組の推進

② 観光の質を高め、市民生活を豊かに – 宿泊日数・消費額単価の増加 –

- 旅館をはじめとする宿泊施設の経営強化、世界に向けた旅館の魅力発信
- 買い物環境の改善、食文化やナイトライフなどの発掘・情報発信

③ 市民と観光客の安心・安全の確保、市域全体への観光客の誘客促進 – 混雑緩和、民泊対策の強化、マナー啓発 –

- 隠れた名所の発掘・活用などにより、市域全体への誘客を推進する
「とっておきの京都～定番のその先へ～」プロジェクト（仮称）を実施
- 市バスの「前乗り後降り」方式の導入や「地下鉄・バス一日券」の値下げ等による、交通機関の混雑緩和
- 「民泊通報・相談窓口」の体制強化や、違法・不適切な民泊への更なる指導強化
- 海外へのマナー啓発の強化、マナー啓発を行う地域団体等への支援を実施

④ 多言語情報の充実による観光客の満足度向上 – ウェブサイト、公共交通の利便性向上・発信力強化 –

- 外国人観光客向けウェブサイトの情報充実や公共交通の一層の多言語化により、観光客の満足度向上、京都ファンの獲得

⑤ 京都観光を推進する体制の強化と担い手育成 – 持続可能な観光地経営に向けた組織と人づくり –

- 観光客の集中緩和などの政策課題対応をはじめ、観光客誘致の充実、地域の稼ぐ力を支援するなど、観光地経営の中核を担うDMO※(京都市観光協会)の体制強化への支援 ※DMO : Destination Marketing / Management Organization
- これからの京都観光を支える人材の育成に向け、観光関連の教育を行う大学との連携やベンチャー支援を実施

「京都観光振興計画2020⁺¹」を着実に推進し、
「持続可能で満足度の高い国際文化観光都市」を実現！
宿泊税を活用し、「住んでよし訪れてよし」のまちづくりを推進します